

夢をえがこう 自分をえがこう 嶮山あったか ハーモニー

横浜市立嶮山小学校

TEL: 902-7161,7162

FAX: 904-4254

平成 31 年 1 月 31 日

嶮山小通信

2 月号

ホームページアドレス <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kenzan/>

校長 山口 昭代



『高く飛ぶために』

副校長 内田 宏平

嶮山小学校では、マラソン大会に向けての練習が始まりました。正直な話、走るのが好きではない得意ではないという子もいるとは思いますが、どの子も1周、2周…と走るうちに、体が温まり表情も柔らかくなっていきます。走り始めは重そうだった体に力が漲っていく様子が伝わってきます。

私はマラソンを趣味としています。十数年前に知り合いに誘われて走り始めたのですが、最初は3kmのレースで脚がパンパン。翌日は座ったまま授業をするような有様でした！こんなはずではなかったという悔しい思いでちょっとずつ走り始め、今に至ります。

これまで様々な大会（本番）に参加してきましたが、その本番に向けた数か月間をどのように過ごしていくかがとても重要です。42.195kmは、何となく走れるような距離ではなく、相応な準備（練習）が必要です。マラソンにミラクルやまぐれは無いのです。

しかし、「時間が無いから…」「寒さが厳しいから…」などと走らない口実を見つけようとする囁きが心の中に湧いてくるのもまた事実です。そんな時、2012年にノーベル賞を受賞した山中伸弥教授の言葉を思い出します。

『高く飛ぶためには、思いっきり低くかがむ必要がある』

たくさんの失敗や挫折を経験してきた山中教授が語る言葉なだけに、説得力があります。

私のマラソンは単なる趣味ですし、山中教授のようなシビアな状況に置かれることもありませんが、『自己ベストを出す！』という大ジャンプを実現するために、寒風の中走りだします。

子どもたちと話していると、「〇年生になったら、ちゃんとやるから」という言葉が聞かれることがあります。もちろん、そのやる気は嬉しいですし、そうなったらいいなという期待ももちます。でも、そのようなとき、山中教授の言葉が頭をよぎります。今できるような努力をしておかないと、近い将来に思いを実現させるのは難しいのでは…

夢の数は無限にあります。夢に至るまでの道筋も様々です。ですが、それを実現させるためには、『低くかがむ』ような努力が必要です。口で言うだけではなく、実際に『低くかがむ』ような努力をすることで、大きな飛躍が得られるのです。

これから、子どもたちは、新しい学年に向けた大切な時期を過ごしていきます。新しい学年で『高く飛ぶために』今はしっかりと『低くかがむ』努力をしてほしいと思います。その努力を我々は大人として見落とさず、しっかりと称讃していきたいです。その努力は素敵なことなのだと伝えていきたいです。

横浜市営地下鉄が延伸されるというニュースが新聞報道されました。この嶮山付近にも駅が新設されるようです。人の流れが変わり、町の様子も今とは違ったものになってくることが予想されます。先日行われた「すすき野まちづくり特別委員会」では、この地域の近い将来について、参加した方々で思いを膨らませ、たくさんの意見とアイデアが出されました。皆様が地域を愛する思い、地域のよさを未来につなげようとする思いの熱さに触れ、『高く飛ぶ』まちの姿が目に見え、そのために今、皆様に思いを共有しながら『低くかがむ』努力をされている。山中教授の言葉と重なります。

マラソン大会本番は13日。今『低くかがむ』努力を重ねている子どもたちは、きっと本番で自身の成長につながるような大きな達成感を得ることができるはずです！

保護者の皆様、地域の皆様、今月も本校教育活動へのご理解とご協力をお願いいたします。